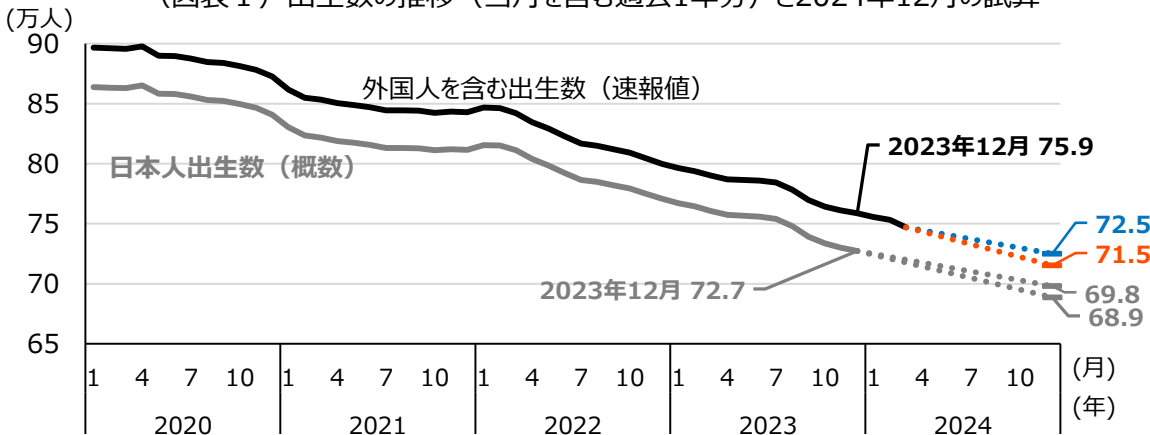


「少子化研究シリーズ No.11」

## 2024年のわが国出生数は70万人割れの公算大

- (1) 6月5日、厚生労働省より、2023年の出生数（日本人）は72.7万人（概数、前年比▲5.6%）、合計特殊出生率は過去最低を更新する1.20であったことが公表されたが、2024年の出生数はさらに減少して、70万人を割り込む公算大。
- (2) 日本人の人口動態（概数）に3ヵ月ほど先行して公表される人口動態統計速報（外国人を含む値）を用い、過去の減少トレンドを延長する形で2024年の出生数（速報値相当）を試算すると、71.5～72.5万人となる（図表1）。この数値に、過去の概数と速報値の比を乗じて日本人のみの出生数（概数相当）を試算すると、70万人を下回る68.9～69.8万人となる。なお、速報値の2024年1～3月に限れば、出生数は前年同期比▲6.4%の大幅減となっており、2024年通年の着地は、さらなる下振れも。国立社会保障・人口問題研究所の将来人口推計では、2024年の出生数（概数相当）は75.5万人（前年比+2.2%）、以後同水準を維持するとしているが（図表2）、下げ止まりを予想させる材料は見当たらず。
- (3) 近年、急速に進む出生数の減少は、若い世代の人口減少のほか、婚姻率や有配偶出生率の低下といった結婚、出産に対する思考・行動様式の変化の影響が顕著。とりわけコロナ禍（2020年春～2022年夏）に婚姻数が大きく減少したことの影響は大（図表3）。コロナ禍の終息とともに婚姻数の回復に期待する向きもあったが、2023年から足もとまで減少傾向に歯止めはかからず、近い将来の出生数回復は期待薄。

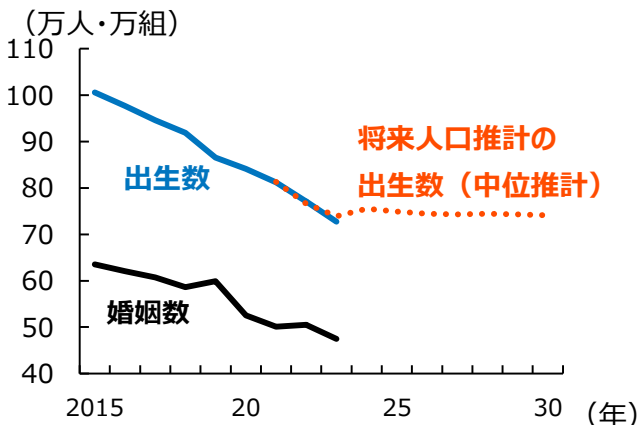
（図表1）出生数の推移（当月を含む過去1年分）と2024年12月の試算



（資料）厚生労働省「人口動態統計速報および概数」

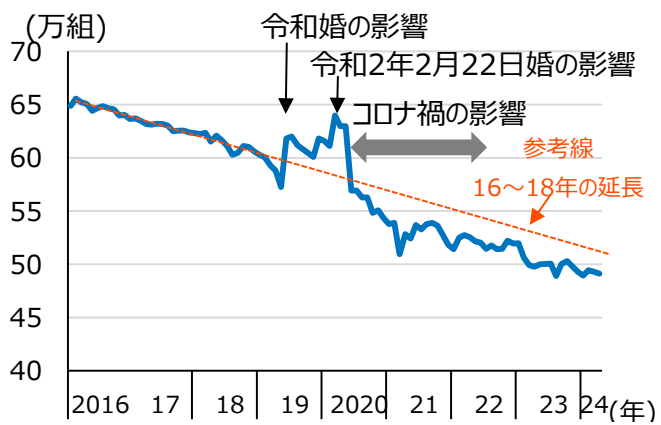
（注）2024年12月の試算（速報値相当）は、16年1月～2024年3月までと、22年1月～24年3月までの2つの減少率を用いて算出。概数の2024年12月の試算は、速報値の試算値に、20年以降の概数と速報値の比率の平均を乗じて算出。

（図表2）出生数と婚姻数の推移（概数）



（資料）厚生労働省「人口動態統計 概数」、国立社会保障・人口問題研究所「将来人口推計」

（図表3）婚姻数の推移（同月を含む過去1年分）



（資料）厚生労働省「人口動態統計 速報値」

【ご照会先】調査部 上席主任研究員 藤波匠 (fujinami.takumi@jri.co.jp , 090-8487-7832)

本資料は、情報提供を目的に作成されたものであり、何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。本資料は、作成日時時点で弊社が一般に信頼出来るとされる資料に基づいて作成されたものですが、情報の正確性・完全性を保証するものではありません。また、情報の内容は、経済情勢等の変化により変更されることがあります。本資料の情報に基づき起因してご閲覧者様及び第三者に損害が発生したとしても執筆者、執筆にあたっての取材先及び弊社は一切責任を負わないものとします。